学位研究第16号　平成14年3月（論文）
［大学評価・学位授与機構　研究紀要］

フランスにおける大学外高等教育について
－IUTを中心として－

On the Extra-University Higher Education in France:
With Reference to the IUT

白鳥　義彦
SHIRATORI Yoshihiko

Research in Academic Degrees, No.16（March, 2002）［the article］
The Journal of Academic Degrees of National Institution for Academic Degrees

１．はじめに …… 69
２．フランスの高等教育におけるIUTの位置づけ …… 70
３．IUTの現状 …… 73
４．他の高等教育課程との比較 …… 76
５．まとめ …… 78

ABSTRACT …… 81

フランスにおける大学外高等教育について
－IUTを中心として－

白鳥　義彦*

1．はじめに

本稿は，大学外高等教育の展開状況と大学との関係に関する日米欧の比較研究の一環として，IUT（Institut universitaire de technologie，技術短期大学部）を中心に，フランスにおける大学外高等教育のあり方を検討することを目的とする。

フランスの高等教育を特徴づけるものとして，大学とグランド・ゼコールとの並立[1]ということが伝統的に指摘される。しかしここで取り上げるIUTは，これら両者の枠組みとは区別してとらえられるべきものである。両者との根本的な相違として，IUTの修業年限は2年であり，短期高等教育機関として位置づけられる点がまず挙げられる。またIUTが創設されたのは1966年であり，中世の13世紀にまでさかのぼるソルボンヌや，200年以上の歴史を誇るものも多いグランド・ゼコール[2]などと較べると，相対的に新しい機関である。さらに両者と対比して考えるならば，IUTは制度的には大学の一部門を構成しているが，入学に際して各機関個別の入学試験が課されるところは，バカロレア取得者であれば原則として入学が認められる大学とは異なっており，この点においてはむしろグランド・ゼコールに近い型であると言うことができよう。実際，このように入学時に選抜がなされることは，IUTの特長としてとらえることができる。これが，本稿においても後に見るように，落第や退学の率の低さなどに示されるような，入学後の学業遂行の達成度の高さにも結びついている。またIUTは職業教育のための機関として位置づけることができるが，この点も，そもそもは職業への準備としてグランド・ゼコールが創設された理念と通ずるものがある。

なお，先に述べたようにIUTが創設されたのは1966年であり，1968年の「5月革命」に先行するとは言え，その創設の背景には「5月革命」に連なる高等教育への進学の高まりがあったと考えられる[3]。またIUTを特徴づけるものは何よりも，職業を目的とする短期高等教育，という点にあった[4]。IUTの創設に際しての公的な理由として，一方で職業側では，技術の急速な発展のなかでますます頻繁となる転職や適応を容易とするために十分な一般的基礎を有する，より多数の上級技術者を養成する必要性が十分に理解されており，他方で文部省の側でも，高等教育への進学希望者の大量の増大が問題として認められ，そして必ずしも5年や6年にもわたって高等教育を受けることを目指してはいない多くの数の学生たちに就職口を確保することが望まれていた，と指摘されている[5]。

* 神戸大学　文学部　助教授

2．フランスの高等教育におけるIUTの位置づけ

まず，学生の人数という観点を中心として，今日のフランスの高等教育におけるIUTの位置づけを見ておこう。

最初に，1996／97年度におけるフランスの高等教育の機関別在籍者数として，以下の表があげられる。

表1　フランス高等教育機関別在籍者（1996／97年度）[6]

	在籍人数（人）	比率（%）
大学及び大学に付属する高等教育機関		
大学（職業専門課程IUPを含む）	1,335,997	62.0%
教員養成センター（IUFM）	85,885	4.0%
短期の職業技術高等教育機関		
技術短期大学部（IUT）	108,587	5.0%
上級技術者養成課程（STS）	235,843	10.9%
専門高等教育機関		
グランド･ゼコール準備級（CPGE）	78,839	3.7%
技師学校（Ecoles d'Ingénieurs）	79,286	3.7%
商業学校（Ecoles de Commerce）	47,293	2.2%
その他の専門高等教育機関（高等師範学校，政治学院，獣医師学校，建築学校，芸術系学校，看護婦学校等）	159,381	7.4%
合計	2,155,950	100%

* IUP：Institut universitaire professionalisé.　大学に付属して設置される3年間一貫の職業技術教育課程。大学等の第一学年修了後の学生を対象とする。卒業時には大学における4年間の教育修了時と同様の学位（Maîtrise）が与えられ，さらに技師学校で授与されるエンジニア学位に準じる学位（Ingénieur maître）を取得することができる。

IUFM：Institut universitaire de formation des maîtres.　各大学区に一カ所ずつ設置されている，初等･中等教育教員養成のための専門機関。大学の第三学年（licence）修了後の学生を対象としている。二年間の課程のうち，一年目は教員資格試験の準備をおこない，二年目には試補教員として学校現場での実地研修をおこなう。

STS：Sections de techniciens supérieurs.　リセ（高等学校）付設の二年間の職業技術教育課程。IUTと同レベルの高等教育機関。修了者はBTS（Brevet de technicien supérieur）を取得する。

CPGE：Classes préparatoires aux Grandes Écoles.　グランド・ゼコールへの進学準備のために，主にリセに付属して設置されている二年間の課程。

Écoles d'Ingénieurs：技師（Ingénieurs，エンジニア）の養成を目的とする，理工系専門高等教育機関。グランド・ゼコール準備級を経て進学する三年間の課程が一般的であるが，バカロレア取得後に直接入学できる五年制のものもある。

Écoles de Commerce：企業における管理職の養成を目的とする，ビジネス系専門高等教育機関。

グランド・ゼコール準備級を経て進学する三年間の課程が一般的であるが，バカロレア取得後に直接入学できる，三年制から五年制のものもある。

この表１に示されている数字からは，高等教育在籍者215万６千人のうち，IUT在籍者は10万６千人ほどで，約５％を占めていることがわかる。比率としては必ずしも多くはなくとも，絶対数として一定の人数が在籍していることがわかる。相対的な人数の少なさは，IUTが二年間の短期高等教育の課程であることにもよっている。そこで，第一学年への入学者数で見れば，次のような数字が示される。

表２　バカロレア取得後の主要なコースの第一学年への入学者数（1999／2000年度）[7]

	在籍人数（人）	比率（%）
大学（IUTを除く）	243,213	54.8%
技術短期大学部（IUT）	48,033	10.8%
－うち，第二次産業分野	21,813	4.9%
－うち，第三次産業分野	26,220	5.9%
グランド・ゼコール準備級（CPGE）	35,589	8.0%
上級技術者養成課程（STS）	117,286	26.4%
－うち，第二次産業分野	42,880	9.7%
－うち，第三次産業分野	74,406	16.8%
合計	444,121	100%

この表２からは，第一学年への入学者数で見れば，IUTへの入学者の比率は10%を越えており，先程の表１に示されていたIUTの占める比率（５％）の約２倍になっていることがわかる[8]。また，IUTとSTSを合わせた短期高等教育への入学者の比率が３分の１を越えているところも注目すべき点である。

さらに，バカロレア新規取得者の高等教育への進学状況を，バカロレアの種別ごとに見れば，表３のようになっている。

この表３からは，近年の傾向として，IUT，STSといった短期高等教育の課程への進学者が実数，比率ともに増大していること，またとりわけ普通バカロレアを取得した者のなかで短期高等教育の課程へ進学する者が増えていることがわかる。1995／96年度および1999／2000年度について，IUT内部でのバカロレアの種別ごとの進学者数および比率を見れば，1995／96年度についてはIUT進学者38,565人のうち，普通バカロレア取得者が24,095人で62.5%，技術バカロレア取得者が13,891人で36.0%，職業バカロレア取得者が579人で1.5%，また1999／2000年度についてはIUT進学者43,379人のうち，普通バカロレア取得者が28,938人で66.7%，技術バカロレア取得者が13,941人で32.1%，職業バカロレア取得者が500人で1.2%となっており，普通バカロレア取得者が３分の２を占め，しかもその比率が高まっていることがわかる。このようにIUTは，フランスの高等教育においてその存在意義を高めてきていると言うことができよう。

表３　バカロレア新規取得者の高等教育の主要なコースへの進学状況（1995／96年度および1999／2000年度）[9]

	1995／96年度		1999／2000年度	
	進学者人数(人)	比率（%）	進学者人数(人)	比率（%）
普通バカロレア	287,533	70.7%	256,162	66.7%
大学	205,608	71.5%	170,595	66.6%
IUT	24,095	8.4%	28,938	11.3%
STS	20,989	7.3%	22,826	8.9%
CPGE	36,841	12.8%	33,803	13.2%
技術バカロレア	109,389	26.9%	113,330	29.5%
大学	32,403	29.6%	31,514	27.8%
IUT	13,891	12.7%	13,941	12.3%
STS	61,822	56.5%	66,336	58.5%
CPGE	1,273	1.2%	1,539	1.4%
職業バカロレア	10,039	2.5%	14,827	3.9%
大学	3,979	39.6%	6,014	40.6%
IUT	579	5.8%	500	3.4%
STS	5,476	54.5%	8,311	56.1%
CPGE	5	0.0%	2	0.0%
バカロレア取得者全体	406,961	100%	384,319	100%
大学	241,990	59.5%	208,123	54.2%
IUT	38,565	9.5%	43,379	11.3%
STS	88,287	21.7%	97,473	25.4%
CPGE	38,119	9.4%	35,344	9.2%

* 比率（%）は，普通バカロレア，技術バカロレア，職業バカロレアの欄については，バカロレア取得者全体に対する比率を，大学，IUT，STS，CPGEの欄については，バカロレアの各種別内での比率を示す。なお，バカロレア取得者全員が高等教育に進学するわけではなく，特に職業バカロレア取得者の高等教育への進学率は２割を下回る水準にとどまっている。
IUT：技術短期大学部，STS：上級技術者養成課程，CPGE：グランド・ゼコール準備級

なお，DUT取得者数（IUT修了者数）およびBTS取得者数（STS修了者数）の推移を示しておく。この表４からも，IUTおよびSTSといった短期高等教育の学生数の増大を読み取ることができる。

表４　DUTおよびBTS取得者数の推移（人）（1970年-1997年）[10]

	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	1997年
DUT	6,482	14,746	19,769	24,045	27,825	37,362	37,250
BTS	10,463	11,526	17,442	29,594	52,667	77,083	79,443
合計	16,945	26,272	37,211	53,639	80,492	114,445	116,693

3．IUTの現状

これまでに論じてきた，フランスの高等教育におけるIUTの位置づけを踏まえた上で，次にIUTの現状をより詳しく見ていくこととしよう[11]。

先にも述べたように，IUTは1966年に創設された課程であり，制度的には大学の一部門を構成している。現在フランス全国におよそ100のIUTが設置されている。教員のメンバーは，高等教育の教員，中等教育の教員，企業人（経営者や管理職など）によって構成される。特に企業人が教員のメンバーに含まれていることは，IUTの実践的な職業教育の方向性を示すものとして特徴的な点である。

1997／98年度においては，557の教育部門（学部，départements d'enseignement）があり，第二次産業の分野に約49,000人，第三次産業の分野に約60,000人の生徒が学んでいる。1997年のディプロム取得者は40,000人弱となっている。24の専門分野（第二次産業の分野に14，第三次産業の分野に10）のうち，「企業管理」と「商品化技術」だけでディプロム取得者の35%を集めている。分野ごとの学生数には一定の偏りがあると言えよう。

IUTでの課程を修了した者には，DUT（Diplôme universitaire de technologie）が授与される。このDUTは国家ディプロムであり，専門名と，場合によってオプション名が付されて，その分野が明記される。DTUは，STS（上級技術者養成課程）修了者に授与されるBTS（Brevet de technicien supérieur）とともに，上級技術者の養成を目的としたディプロムである。

IUTに入学し，DUTを取得する方法としては，１.バカロレア取得後の全日制教育，２.１年間の特別教育（２年間の高等教育，bac＋２の後に，１年間の全日制教育によってなされる。ディプロム取得後はbac＋３として評価される。），３.実習教育，４.継続教育，５.職業経験の認定，がある。実際には，96%の学生が１.の全日制教育によっている。

１番目の全日制教育の場合，IUTへの入学は，書類選考を基本とし，さらに場合に応じて面接や筆記試験も含めてなされる。選考はIUTの各教育部門ごとになされる。併願が可能であるので，例えば定員80人に対して出願者が1,200人であっても，上位３分の１に入っていれば，上位者が他に入学していくことを考えると合格の可能性はある，ということである。出願に際しては，希望する教育部門に適合した種類のバカロレアを取得していることが求められる。入学後の教育は，講義，指導付学習（travaux dirigés），実習（travaux pratiques）といったIUT内での教育が２年間で合計60週相当，すなわち第二次産業の分野では合計1,800時間，第三次産業の分野では合計1,620時間おこなわれ，これに加えてさらに300時間の指導下でのプロジェクト，最低10週間の企業での実習といった現場での教育がなされる。

２番目の，１年間の特別教育の場合は，IUTへの出願以前の就学内容によって入学の審査がなされる。その際には，試験や面接がなされることもある。第三次産業の分野の方が，多様な専攻を学んできた学生を広く受け入れる傾向がある。これに対して第二次産業の分野の方は，習得してきた学習内容に対する基準はより厳しい。ただし入学の基準に関して例外がないわけではなく，最終的な判断は個別のケースごとになされる。入学後の教育は１年間のフルタイムでなされるが，上記の２年間での教育の場合と同様，企業での実習は必修となっている。

３番目の実習教育は，１年間から３年間にわたって，企業での就労と学校での学習とを交互におこないながら学位を取得するものである。1997年度のこのコースの人数は，約1,900人である。このコースによる実習生には，全産業一律スライド制最低賃金（SMIC）の23%から78%の報酬が企業から支払われる。このコースの入学も，書類選考を基本として，場合によって面接なども加えて審査される。対象者は26歳以下である。最終的な入学の決定のためには，IUTへの入学の許可とともに，実習の契約の取得（企業による採用）という，二つの条件を満たすことが必要である。教育に関しては，交互におこなわれる企業での実習とIUTでの学習との期間やリズムは，それぞれの分野やケースによってまちまちである。

継続教育ならびに職業経験の認定は，多様な内容を有している。DUTの取得に至る様々な種類の職業上の研修があり，入学に際して要求されるレベルも多様である。入学の審査は書類選考によるが，以前の学習習得レベルの確認はなされる場合もなされない場合もある。教育の期間も，フルタイムでの１年間からパートタイムでの３年間ないしは４年間に至るまで様々である。教育は，単位の積み重ねによってなされるが，以前の職業や学習の経験のなかですでに学習内容を習得している場合には，その単位の教育を受けることは免除されうる。通信制で教育がおこなわれることも非常に多い。

そもそもは職業のための準備教育ということを目的とし，創設に際しては修了後の進学ということはあまり想定されていなかったIUTであるが，IUTを修了したのちにさらに勉学を継続する学生の比率は1980年代初頭から上昇を続けている。1980年のDUT取得者では25%に過ぎなかった進学者は，1984年では38%，1988年では45%，1992年では63%にまで増大し[12]，今日では65%の学生がさらに勉学を続けている。その内訳は，９％が技師学校，５％が商業学校，44%が大学第二課程，21%が大学第一課程（DEUG），２％が教員養成センター（IUFM），６％が職業専門課程（IUP），６％が上級技術者養成課程（BTS）修了後教育，７％がその他の教育，となっている[13]。

進学に際しての条件は，基本的に進学先の学校によって定められている。例えば大学への進学の場合には，IUTの教員による推薦や大学の教員による同意を得たのちに，DEUGの第２学年やlicence（大学第二課程の第１学年）など，進学に際しての学年が各大学によって定められる。技師学校等への進学に際しても，書類選考によるもの，競争試験によるものなど様々である。

ヨーロッパでの学位の均衡を一つの理由として，職業リサンスが2000年に創設されたが，DUT取得者はDEUGやBTSの取得者などとともに、ここに進学することが当然の権利として認められる。

次に，IUTの専門分野を示しておこう。

第二次産業分野には，次の14の専門分野がある。

・化学――オプション１：化学，２：材料，３：化学生産（1995-96年度に第一学年に登録した1,988人の学生のうち，1,378人が1997年にディプロムを取得。２年間での取得率69%，以下同様に各専門分野について括弧内に数字のみ示す）

・生物工学――オプション１：生物･生化学分析，２：食品･生物工業，３：栄養学，４：環境工学，５：農学（2,827人／2,311人，82%）
・化学工学－手続工学――オプション：手続――オプション：生物－手続（374人／365人，97%）
・土木工学――オプション１：建物，２：空調工学・建物設備，３：公共土木事業（2,366人／1,665人，70%）
・電信工学（855人／592人，69%）
・電気・情報工学――オプション１：自動装置・システム，２：電気，３：動力電気技術・電気，４：生産現場網（6,212人／4,004人，65%）
・生産・管理工学（1,383人／878人，63%）
・機械工学（4,742人／3,214人，68%）
・熱・エネルギー工学（914人／817人，89%）
・衛生－安全－環境（462人／410人，89%）
・物理――オプション：物理－化学的材料・管理，――オプション：道具技術（2,954人／2,186人，74%）
・計測学・品質管理（27人［1996-97年］，24人［1998年］）
・組織・生産工学（758人／598人，79%）
・科学・材料工学（133人／98人，74%）

また第三次産業分野は，次の10の専門分野によって構成されている。

・法曹（1,015人／682人，67%）
・社会――オプション１：社会・社会－文化活動，２：社会福祉，３：特別教育（980人／744人，76%）
・行政・商業管理（266人／181人，68%）
・企業・行政管理――オプション：財政－会計，――オプション：中小組織，――オプション：人材（10,689人／7,186人，67%）
・在庫・輸送管理（1,423人／977人，69%）
・情報－コミュニケーション――オプション１：書物，２：企業情報・文書，３：企業コミュニケーション，４：広告，５：ジャーナリズム（1997年取得者1,726人）
・情報科学――オプション１：情報工学，２：産業システム，３：映像技術（3,479人／2,666人，76%）
・コミュニケーションサービス並びにコミュニケーション網（208人／161人，77%）
・統計並びにデータ情報処理（647人／475人，73%）
・商品化技術（9,262人／6,677人，72%）

分野によって人数の多寡はあるが，いずれの分野においても２年間でのディプロム取得の比率が60%台から70%台，分野によっては80%台から90%台という高い数字を示している。そこで次に，大学第一課程（DEUG），グランド・ゼコール準備級（CPGE），上級技術者養成課程

（STS）等の，高等教育の他の課程と比較しながら，学業や学生の立場といった観点を中心に，IUTのあり方を考察していこう。

4．他の高等教育課程との比較

まず，大学第一課程（DEUG），技術短期大学部（IUT），上級技術者養成課程（STS）それぞれに入学した者の，バカロレア取得から２年後の状況を順に見ておこう。

表５　バカロレアの種類別の，DEUG登録者のバカロレア取得から２年後の状況（1996年バカロレア取得者）[14]

	普通バカロレア			技　術	学生全体
	遅れなし	遅れあり	全　体	バカロレア	
２年間でDEUG取得	51.1%	28.9%	42.6%	7.3%	37.0%
第二課程在籍	48.4%	27.9%	40.6%	7.3%	35.3%
他の勉学	2.7%	1.0%	2.0%	—	1.7%
DEUG取得せず	48.9%	71.1%	57.4%	92.7%	63.0%
DEUG在籍	33.6%	35.8%	34.5%	28.7%	34.0%
IUTかSTS	7.8%	12.6%	9.6%	19.9%	11.3%
他の勉学	4.4%	10.2%	6.7%	12.0%	7.4%
勉学をやめる	3.1%	12.1%	6.6%	32.1%	10.3%

＊「遅れなし」,「遅れあり」は，バカロレア取得までの落第等による遅れの有無を示す。表６についても同様である。

表６　バカロレアの種類別の，IUT入学者のバカロレア取得から２年後の状況（1996年バカロレア取得者）[15]

	普通バカロレア			技　術	学生全体
	遅れなし	遅れあり	全　体	バカロレア	
DUT取得	83.4%	57.9%	70.5%	53.1%	64.3%
勉学を継続	60.0%	40.7%	50.3%	28.1%	42.2%
勉学をやめる	23.4%	17.2%	20.2%	25.0%	22.1%
DUT取得せず	16.6%	42.1%	29.5%	46.9%	35.7%
IUT在籍	8.7%	20.1%	14.5%	15.5%	15.2%
他の勉学	6.8%	16.1%	11.5%	19.1%	14.4%
勉学をやめる	1.1%	5.9%	3.5%	12.3%	6.1%

表７　バカロレアの種類別の，STS入学者のバカロレア取得から２年後の状況（1996年バカロレア取得者）[16]

	普通バカロレア	技術バカロレア	職業バカロレア	学生全体
BTS取得	74.7%	54.7%	47.6%	57.3%
勉学を継続	32.6%	14.7%	9.8%	17.2%
勉学をやめる	42.1%	40.0%	37.8%	40.1%
BTS取得せず	25.3%	45.3%	52.4%	42.7%
STS在籍	12.9%	22.7%	28.8%	21.8%
他の勉学	4.4%	1.4%	2.7%	2.1%
勉学をやめる	8.0%	21.2%	20.9%	18.8%

表５から表７までのこれら３つの表からは，バカロレア取得までに遅れがあった場合，高等教育進学後の学業遂行において，ディプロム取得にまで至らない可能性が高くなること，また普通バカロレアと比較して，技術バカロレアおよび職業バカロレアの取得者は，高等教育での学業遂行に際して困難が大きいことが読み取れる。特に，技術バカロレア取得者がDEUGを２年間で取得する比率が7.3%にしか過ぎず，勉学を離れてしまうものが32.1%と３分の１近くにものぼることは，注目されるべきであろう。こうした数字と比較すれば，技術バカロレア取得者がIUTあるいはSTSに進学した場合には，普通バカロレア取得者よりもディプロム取得の比率は低いとは言え，半数以上の者が２年間でDUTあるいはBTSの取得に至っている。

また学生全体での比率を見れば，２年間でのDUT取得者が64.3%と３分の２に近く，BTSの場合にも57.3%と半数以上が取得に至っているのに対して，DEUGの場合には37.0%と３分の１強に過ぎない。ここからもDEUGの教育状況の困難さを読み取ることができる。同時に，IUTに進学した場合のディプロム取得に至る「成功」の可能性の高さがここには示されている。

次に，将来の職業への見通しについては，次のような数字が得られる。

表８　性別・課程別の，将来の職業への見通し（1996年バカロレア取得者）[17]

	DEUG			グランド・ゼコール準備級(CPGE)			
将来への見通し	男	女	全 体	男	女	全 体	
楽 観 的	41.5%	32.7%	35.8%	63.0%	55.2%	60.0%	
悲 観 的	54.2%	64.1%	60.6%	33.6%	39.9%	36.0%	
無 回 答	4.3%	3.2%	3.6%	3.4%	4.9%	4.0%	
	IUT			STS			
将来への見通し	男	女	全 体	男	女	全 体	学生全体
楽 観 的	60.1%	34.4%	50.2%	50.8%	36.0%	43.7%	43.5%
悲 観 的	37.3%	64.7%	47.9%	45.4%	59.4%	52.2%	52.8%
無 回 答	2.6%	0.9%	1.9%	3.7%	4.6%	4.1%	3.7%

この表８からは，IUT在籍者の半数以上が将来に対して楽観的な見通しを持っていることがわかる。過半数が楽観的であるのは，60%が楽観的と回答しているグランド・ゼコール準備級（CPGE）と，このIUTしかない。DEUG在籍者の場合には，楽観的であるのは35.8%に過ぎず，

対して60.6%が悲観的である。ここにも，DEUGの困難さが示されていると言えよう。なお，全体を見渡して，男性よりも女性の方が悲観的であると回答している比率が高いことも注目される。

さらに，学生自身が希望する学業レベルも見ておきたい。

表９　課程別の，希望学業レベル（1996年バカロレア取得者）[18]

希望学業レベル	DEUG	CPGE	IUT	STS	学生全体
Bac＋2	15.1%	1.2%	35.1%	58.0%	26.7%
Bac＋2あるいはそれ以上	0.7%	—	3.3%	1.4%	1.2%
Bac＋3あるいはそれ以上	14.6%	0.9%	20.9%	20.7%	16.6%
Bac＋4あるいはそれ以上	18.6%	4.3%	18.4%	11.5%	15.4%
Bac＋5あるいはそれ以上	29.5%	62.6%	19.8%	6.1%	25.3%
Bac＋5以上	21.5%	31.0%	2.5%	2.3%	14.8%

この表９からは，短期高等教育の課程であるIUTやSTSでは，学生自身の希望する学業レベルもそれほど高くはないことがわかる。しかし，同じ短期高等教育課程であるSTSと比較して，IUTの場合には，とりわけBac＋4あるいはそれ以上，あるいはBac＋5あるいはそれ以上といった，より長期にわたる学業レベルを希望している者の比率が高いことがわかる。これが実際の進学の傾向とも結びついて，DUT取得者の方がBTS取得者よりもさらに積極的に進学していると考えることができよう。

５．まとめ

これまでに論じてきたところから，1966年に創設されたIUTは30有余年を経て，フランスの高等教育のなかで重要な位置を占めるようになってきたことがわかる。しかも近年その重要性は高まってきていると言うことができる。バカロレア取得者が原則として入学できる大学は，今日とりわけ大学第一課程DEUGでの教育環境の悪化が指摘されている。そのような状況も反映して，入学に際して選抜のおこなわれるIUTの人気が，普通バカロレア取得者も含めて高まっているのである。また実際に，IUTにおいてはディプロム取得に至る比率も高く，入学後の「成功」の可能性が優れている。そして，DUT取得後すぐに職業に就くのではなく，さらに勉学を続ける者の比率もこの20年ほどの間に非常に高くなってきている。IUTは職業に関しての完成教育の機関であるというよりも，学業を続ける上での通過機関としての性格を強めてきているのである。

IUTをめぐっては，他にもいくつかの論点が考えられるが[19]，それらの検討は今後の課題としたい。

＜注＞

[1] 拙稿（1995）では，19世紀末の第三共和政期における，とりわけ「科学」との関連のなかでの，大学ならびにグランド・ゼコールの意味づけについて論じている。

[2] 今日においても有力ないくつかのグランド・ゼコールの創設時期を見ておくと，土木学校が1747年，鉱山学校が1783年，理工科学校および高等師範学校が1794年などとなっている。

[3] Fédération nationale des Diplômés Universitaires de Technologie, 1978, p.9.

[4] Domenc, Michel et Jean-Pierre Gilly, 1977, p.51.

[5] *Ibid*., p.50.

[6] 松坂，1999，7頁より。

[7] *Note d'information*, 00-34, p. 4 より作成。

[8] グランド・ゼコール準備級などを経て，バカロレア取得後３年目に入学することが一般的である技師学校，商業学校，その他の専門高等教育機関などは，表１には含まれていたが，この表２には含まれていない。また，定義からして，次の表３にもこれらは含まれていない。

[9] *Note d'information*, 00-34, p.4より作成。

[10] *Note d'information*, 98-42, p.2.

[11] ONISEP, 1999, 2002などを参照している。

[12] Gendron, 2000, p.218.なお，同所に示されているBTS取得後の進学率の推移を見れば，1980年で16%，1984年で22%，1988年で25%，1992年で39%となっており，STSでも同様に進学の傾向が高まっていること，しかしその傾向はIUTの方がSTSよりもさらに高いことがわかる。

[13] ONISEP, 1999, p.7.

[14] *Note d'information*, 00-25, p.1.

[15] *Ibid*., p.5.

[16] *Ibid*.

[17] *Note d'information*, 98-05, p.5.

[18] *Note d'information*, 98-05, p.5.

[19] 例えばErtul（dir.）では，IUTと地域との関わりなどについても論じられている。

＜参考文献＞

Domenc, Michel et Jean-Pierre Gilly, 1977, *Les I.U.T., Ouverture et idéologie―Les techniciens supérieurs : cadres ou ouvriers?*, Paris: Éd. du Cerf.

Ertul, Servet (dir.), 2000, *L'Enseignement professionnel court post-baccalauréat (IUT-STS)*, Paris: Presses Universitaires de France.

Fédération nationale des Diplômés Universitaires de Technologie, 1978, *Les DUT dix ans après*.

Gendron, Bénédicte, 2000, "Les déterminants de la poursuite d'études après un BTS et un DUT," dans Ertul (dir.) pp.217-243.

松坂浩史，1999，『フランス高等教育制度の概要－多様な高等教育機関とその課程－』広島大学大学教育研究センター。

Note d'Information, Ministère de l'Éducation nationale, de la Recherche et de la Technologie.

ONISEP [Office national d'information sur les enseignements et les professions], 1999, *Les DUT, Les diplômes universitaires de technologie* (Collection diplômes).

—, 2002, *Après le Bac... réussir ses études. Le guide 2002 des études supérieures* (Les Dossiers), (parution annuelle).

白鳥義彦，1995,「デュルケームの大学論－第三共和政の高等教育改革との関連で－」『社会学評論』181　第46巻第1号　46-61頁。

［ABSTRACT］

On the Extra-University Higher Education in France: With Reference to the IUT

SHIRATORI Yoshihiko*

The Institut universitaire de technologie (IUT) was introduced in the French higher education system in 1966. This is a short-term higher education (the main course is two-years education after baccalauréat), oriented for vocational education. In addition to the regular study in the Institute, an apprenticeship for more than ten weeks in an company is required to receive the diploma (diplôme universitaire de technologie, DUT).

There are 24 specialties, 14 in the secondary sector and 10 in the tertiary sector. More than 60% of the students receive a diploma after two year's study. This rate is superior to that of the introductory cycle of the University (DEUG), which is less than 40%.

The number of the students in the IUT is increasing, and more and more students continue their study after receiving a diploma. Two thirds of the graduates continue their study recently, which should be compared to the rate in 1980 (25%). 9% of the students continue their study at the engineering Schools (Écoles d'Ingénieur), 5% at the business schools (Écoles de Commerce), 44% at the second academic cycle of the University, 21% at the introductory cycle of the University (DEUG), 2% at the training schools of the teachers (IUFM), 6% at the professional schools (IUP), 6% at the post-BTS and 7% at other institutions.

The admission at the IUT as well as at the schools and the universities after graduating from an IUT is principally based on the qualifications of the candidate.

* Associate Professor, Faculty of Letters, Kobe University